

開発途上国でスパイラルアップ実践力強化留学 募集要項（二次募集）

鳥取大学は、長期留学プログラム「開発途上国でスパイラルアップ実践力強化留学」の派遣学生の二次募集をします。

【プログラムの概要】

このプログラムでは、鳥取大学の協定校、「ウガンダ・マケレレ大学、メキシコ・南バハカリフォルニア自治大学、マレーシア・マラヤ大学」に、長期（半年から1年間）留学し、協定校における専門科目を受講します。さらに、現地地域社会との交流や、現地の企業等において短期間のインターンシップに参加することで、タフさと実践力を身に付けることを目的としています。

【応募資格】

- ✓ 鳥取大学の学部課程または修士課程に在学中の学生で、大学が実施する短期・中期の海外派遣プログラム※¹にすでに参加しており、さらなるステップアップを図る者

※¹：メキシコ海外実践教育プログラム、ウガンダ海外実践教育プログラム、マレーシア多文化協働実践プログラム、マレーシアファーストステップ英語異文化研修等

- ✓ TOEIC スコア 600 以上

さらに、派遣までに異文化理解力と語学力を向上させるため、派遣決定から派遣開始までの期間に、語学強化コース(英語/スペイン語)や国内英語イマージョンプログラム等への参加、および学内・地域社会での国際交流活動を義務付けます。

【募集定員】 4名

※上記4名のうち、上限2名として奨学金支給対象者を選考。対象外の2名は自費参加とする。

【奨学金支給額】 マレーシア：7万円／月、メキシコ：6万円／月

- 【奨学金受給者資格】 ・日本国籍を有する者又は日本への永住が許可されている者
- ・経済的理由により、自費のみでのプログラム参加が困難な者
 - ・プログラム終了後、鳥取大学において学業を継続し、学位を取得する者または卒業する者
 - ・派遣学生選考時の前年度の成績係数が、3点満点中2.30以上である者
 - ・開発途上国でスパイラルアップ実践力強化留学プログラムに新たに参加する者

※以下の奨学金との併給は認められません。

- ・日本学生支援機構給付型奨学金
- ・「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 新・日本代表プログラム～」による奨学金
- ・本プログラム以外の奨学金を受給する場合で、その支給月額が本プログラムの奨学金の支給月額を超える場合（複数の団体等から受ける場合は合計金額の月額換算額）

【奨学金受給者選考基準】成績基準を満たす申請者の家計状況等を総合的に審査し、奨学金受給対象者を決定する。

【渡航支援金】 13万円又は16万円

本プログラムの奨学金受給者として決定した者のうち、一定の家計基準又は派遣期間を満たしている場合のみ、申請可能とする。

【留学期間】 2025年2月頃～2026年2月頃の期間中、半年から一年間

【留学先】 マレーシア（マラヤ大学）、
メキシコ（南バハカリフォルニア自治大学）

【募集期間】 2024年7月4日(木)～2024年7月16日(火)17時

【応募方法】 所属学部教務係および指導教員に相談し、承諾を得た上で、「開発途上国でスパイラルアップ実践力強化留学学内選考用申請書」を各自ダウンロードし、国際交流課へ提出してください。

【留意事項】

- ① この留学プログラムは、留学先大学との調整、渡航手続き等、留学に係る諸手続きを留学する学生が各自で行うプログラムです。
- ② 長期留学を考える者は、必ず所属学部教務係および指導教員と相談をした上で、申請してください（指導教員の承諾を得ることから始めてください）。
- ③ 奨学金を受給することができない場合は、渡航および留學生活等の費用のすべてを自費でまかなうことができるよう備えておくことを勧めます。
- ④ マラヤ大学では学部には所属しない、大学モビリティセンターが運営する交換留学プログラムへの参加となります。
＜マラヤ大学ウェブサイト＞ <https://gem.um.edu.my/inbound-long-term-home>

【プログラムの達成目標】

日本とは大きく異なる社会の現実の中で、自分自身のもつ能力を活かすと同時に、そこで必要となる能力を身に付けながら、参加学生が描く将来のグローバル社会の構想づくりの中で自分自身の生き方を探る課題を追求し、自分の専門性の持ち方と、その活かし方を探求していくことを達成目標とします。

具体的には下記のような目標です。

1. 派遣先現地で生活に必要な現地語を習得し、日常生活ができる。
2. 派遣先大学で英語による授業を履修し、自分の専門分野の知識・技能を発展させる。
3. 派遣先の企業や公的機関などでインターンシップを経験する。
4. 派遣先の大学や地域において、日本についての情報を発信する。
5. 派遣先大学の学生と協働活動を通じて、学術、社会、文化的交流の場を作り出す。
6. 派遣先と本学との連携・協働を促進する持続的な関係構築を行う。
7. 帰国後に本学や日本（大学の周辺地域、出身地、研究関連など）との協働の働きかけを行う。

【留学前の課題】

課題1：プログラム参加の目的とそのための準備計画についてレポートにまとめる。

課題2：派遣先の情報を調べてレポートにまとめる。

歴史、経済、政治、教育、生活、現代文化、派遣先大学の情報（教育・研究）

課題3：留学経験のある学生へのインタビュー結果報告

課題4：国際交流活動への参加報告

課題5：英語学習（語学強化コース 他）

課題6：現地言語の学習：派遣先の学生と自分で連絡をとり、学習を開始する。

【留学中の課題】

課題１：派遣先大学での授業履修、単位取得

課題２：派遣先大学の学生や現地地域社会との交流（英語カフェ／コミュニティカフェ開催）

課題３：日本（文化・言語）についての発信／本学紹介（場作りと発信、フィードバックをまとめる）

課題４：現地語での生活 現地語による行動リスト作成

課題５：文化交流の場の開催企画・実施（日本語や日本文化情報の提供）

課題６：オンラインによる本学との学生交流の場の企画実施（英語カフェ開催）

課題７：現地大学と本学との交流の仕組みづくり（本学の G フレンズチームとの交流制度づくり）

課題８：現地企業等における短期インターンシップ

【留学後の課題】

課題１：本プログラム報告会での口頭報告

課題２：留学レポート作成

課題３：現地との交流活動の企画実施（英語カフェ開催）

課題４：学外の国際交流活動への参加